

【戸塚区】令和 8 年第 2 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和 8 年 6 月 11 日 14 時 30 分 ～ 16 時 35 分
場 所	戸塚区総合庁舎 9 階特別会議室
出席者	【座長】伏見幸枝議員 【議員：5 名】鈴木太郎議員、山浦英太議員、中島光徳議員 坂本勝司議員、大和田あきお議員 【戸塚区：32 名】白井正和区長、竹内紀充副区長 緑川斉福祉保健センター長、安藤敦久福祉保健センター担当部長、 勝俣英樹土木事務所長、安井健太郎戸塚消防署長（災害対策担当部長） ほか関係職員
議 題	・ 令和 8 年度個性ある区づくり推進費戸塚区予算執行計画等
発言の 要 旨	大和田議員：戸塚図書館のリノベーションについて、地域住民からの要望もあがっているが、どのように反映させていくのか教えてほしい。 神内図書館長：戸塚図書館は 5 月 18 日からリノベーション工事で休館に入り、7 月 10 日にリニューアルオープンする予定。リノベーション工事を始めるにあたっては、昨年度に市民意見募集を実施し、例えば閲覧席が少ないことや子供が安心して過ごせる居場所として整備してほしいなど、150 件を超えるご意見を戸塚図書館に対していただいた。この他にも、図書館利用者懇談会や読書活動推進懇談会などでご意見をいただきながら、リノベーションに反映させてきた。 大和田議員：懇談会などで区民を中心に意見が多く出るとは読書推進にも繋がる。引き続きこれらの場で周知をしてほしい。 次に柏尾川桜並木保全・再生について、危ない桜の木が何か所かあると聞いている。それらの対応について教えてほしい。 森土木事務所副所長：街路樹診断を行っているが、追いつかない場所がある。先生がおっしゃった危険な桜の場所が特定できるのであれば教えてい

ただき、確認をしたい。

大和田議員：舞岡地区センターは、原因は不明だが、建物とその下に隙間が空いていて、住民から不安の声があがっている。隙間の修繕についてどのように考えているのか、災害対策としても心配なので教えてほしい。

堀内地域振興課長：地区センターも含めた施設の老朽化については、様々なご要望をいただいている。その中で小破修繕については速やかに対応しているが、建物の躯体部分については、建築局が修繕計画を立てて対応していく。

大和田議員：マンション防災について、市からもマニュアルが出ているが、実際にその通りにはいかないとの意見が住民から出ている。マンションごとの防災計画はどの程度進んでいるのか。

石和田総務課長：マンション防災ガイドブックは作成したが、災害時にどのような行動を取るかといったマンションの防災計画はそれぞれのマンションが作成することになる。ただ、現状で多くのマンションが作成しているという状況ではないので、マンション防災アドバイザーも利用しながら、積極的に推進していただきたい。

大和田議員：中外製薬の近くの横断歩道で発生した児童の死亡事故を受け、注意表示や速度制限を時速 30km まで下げるなど様々な対策を実施したが、事故が発生した道路は直線でスピードが出やすく、住民からは信号機設置を望む声があがっている。また、私自身も事故が風化してしまうことを懸念している。今後の対策として、どこまで考えているか教えてほしい。

森土木事務所副所長：市としては街路照明の設置を検討している。区内道路では、路面標示や警察が設置した上空アーム標識など、駒立橋が最も安全対策がされている。それと比較すると今回事故が起こった横断歩道では、赤色の路面表示のみで、それ以外で市としてできる対策は街路照明の設置までである。上空アーム標識や信号機設置は所管である警察署にも伝えたい。

山浦議員：地域課題検討事業について、交通課題箇所調査の結果を踏まえて警察と調整すると思うが、区としての見解を教えてください。

御船区政推進課長：地域課題検討事業で実施する調査は、警察所管である信号設置などについて、区内の実態把握を目的として、地域に根差した課題を面的に調査する項目として設定している。その他には緊急的な課題にも対応できるように準備したい。

山浦議員：対象エリアを絞って調査をするのか、全般的に行うのか。

御船区政推進課長：特にエリアは絞っていない。区内の課題のある箇所について調査をしていく。

山浦議員：地域交通課題であれば、利便性が低いところを中心に実施するのが効果的だと思う。無駄のないように調査をしてほしいが、そのあたりはどうか。

御船区政推進課長：全般的に考えていきたいと思っているが、駅の周辺でも例えば今までの事例だと、上倉田交差点の渋滞を、右折レーンを延伸したことで渋滞が緩和されたケースもある。また、渋滞が続くようなところでは警察に信号設置の要望に向けた調査などにも、予算を使っていきたい。

山浦議員：今年４月から自転車にも交通反則通告制度が適用となった。自治体や警察も含め、取り締まる必要があるが一方で、道路整備が追いついてない課題がある。歩行者の近くを自転車が通ったことによる口論の発生や、歩道を走行している自転車を警察が注意する様子もあった。しかし、自転車にとっては車道の走行に恐怖心を感じるため、歩道を走行するしかない状況がある。このような状況について、警察任せではいけないと思うが、見解を教えてください。

御船区政推進課長：市としてできることがあれば区としても道路・交通政策局など関係局と相談をしながら、協力していきたい。また、警察所管の

内容であれば警察にも要望を進めていきたい。

山浦議員：当局にも伝えているが、区としても、そのような状況が区内で多く発生していることを局にしっかり情報共有してほしい。

共同親権がスタートし、区でも研修等も行われていると思うが、その進捗状況を教えてほしい。

鋪こども家庭支援課長：社会福祉職を中心にこども青少年局が作成した研修動画を活用し、令和7年度に学習している。また今年2月に完成したパンフレットやリーフレットで、新任職員も含めて5月に学習会を実施した。また今後は関係各課にも情報提供をしていきたい。

山浦議員：学習することと実際に窓口対応が適切にできるかは別問題であり不安がある。手続き窓口にはなってほしくない。しっかりと子供たちの利益をどう支えるかを考えて対応してほしい。

中島議員：戸塚町の交通死亡事故について、土木事務所もスピード感を持って対応していただいたが、再発防止をどのように行っていくかが重要と考えている。ハード的な対策は警察や土木事務所が検討していると思うが、事故が発生した道路は約400メートルの直線で、途中に横断歩道がある。中外製薬が出来た際に中央車線ができたが、それまでは狭い一本道で歩道がない箇所もあり、速度が出る環境ではなかった。当該道路は速度規制の対象ではなく、同様にスクールゾーンやバス通りなどで速度規制がない道路は多い。しかし、事故発生から1週間で警察が時速60kmから30kmに速度規制をしたことから、速度規制が再発防止に有効なことがわかる。同じような箇所が区内にあれば同様に規制を実施してほしい。公明党としても、速度規制は警察の所管だが、市からしっかり警察に訴えていくことが重要だということを議会で取り上げ、副市長からもしっかり推進していくと答弁もあった。その中で戸塚区として、例えば、スクールゾーン協議会で速度規制に関する要望を上げるような仕組み作りなど、対応を強化すべきである。また、土木事務所でそういった場所がないか確認していると思うが、状況を教えてほしい。

森土木事務所副所長：速度規制については戸塚警察と連携し、速度規制が

なく横断歩道が設置されている道路を確認し、そこがスクールゾーンに含まれているのかも含め、7月中には把握していきたい。

中島議員：現状を正確に把握し警察に規制を促していくことが、交通安全対策に繋がる。都筑区でも中央車線があり速度規制のない道路でニュースになった事故があった。小学校から 100 メートルほど離れた交差点で、自転車に乗った児童と車が接触する人身事故。現場を確認すると共通点があり、やはり速度は死亡事故発生率に直結する。今年9月から中央車線のない道路の法定速度が 60km から 30km に引き下げとなるが、本当に地域住民に浸透していくのか懸念している。2015 年に東品濃小スクールゾーン協議会でも、品濃中央公園から東品濃小学校正門までの 60 km道路への速度規制の要望があり、当時の所管局と調整し、40km 規制を実施した経緯がある。スクールゾーンに 60 km道路があること自体が危険である。区を上げて速度規制を警察に推進してほしいが、区長はどう考えるか。

白井区長：今回の事故は、着任直後に起こった事故であり、私自身も子を持つ親として、本当に胸が張り裂ける思いでこの事故を受け止めている。その後、戸塚警察署の下山署長とお会いする機会もあり、度々この件について話題に上っている。事故の原因については、速度の問題だけでなく道路の構造等様々な要素がある。今回の事故現場以外にも、ご指摘の通り、危険な箇所や速度規制が必要と思われる箇所がある。警察の所管事項と区の事項がそれぞれあるが、交通安全ではそのような垣根は特に関係ないと思う。区やスクールゾーン協議会も含めた区民の方々が危険な箇所の情報があれば、速やかに警察とも情報を共有しながら、それぞれが果たせる役割を連携しながら迅速に対応していきたい。

中島議員：道路・交通政策局が先日の議会で、今回の交通事故の対策について一歩踏み込んで、答弁をしていることも踏まえ、ぜひ積極的に進めてほしい。

また、秋葉三叉路のバス停に車が衝突する事故や山谷での死亡事故などが区内で発生していることを受け、バス停の危険箇所を点検している。特に右カーブの先にバス停がある箇所は、人が並んでいるところに車が突っ込む危険性があると認識しており、土木事務所に車止めの設置を依頼するなど、事故が発生する前に対策を打とうと動いている。その中で、秋葉三

又路のバス停は、ご高齢の方から要望があり、私自身が山崎製パンに敷地のセットバックなど、バス停の安全対策を進めたいと直接相談し協議の結果、安全対策が進んだ事例がある。通常、民間の土地をセットバックし安全対策することは難しいが、民間企業が安全対策に協力してくれたという一つの良い事例になった。感謝の気持ちは伝わっていると思うが、区長から感謝状等を出すべきと思うがどうか。

白井区長：その事例については報告を受けており、本当にありがたいご協力と受け止めている。きちんと感謝の気持ちを表すことも大切なことであり、そういったことが次の事例にも繋がっていくので、しかるべき対応を検討したい。

中島議員：社会的な責任としてCSRを進めている企業も多く、山崎製パンは倉庫を潰してまでセットバックしてくれた。協力をしていただいた企業には、感謝の意を表明し広報をして、光を当てていくことが重要である。横展開できるよう進めてほしい。

来年4月に舞岡八幡山公園にスケートパークがオープンする。議会でも横浜市内初の本格的スケートパークとして議論をした。このスケートパークは最大規模であり、かつ初心者から上級者まで楽しめる。戸塚の新たな名所になるよう、積極的に広報してほしい。現時点でスケートパークの名称は決まっていない。みどり環境局も関わると思うが、名称を区内で募集することで、観覧席を有する本格的なスケートパークの整備について、多くの人へ周知を図る必要がある。みどり環境局と連携する必要があると思うが、指定管理者が決まるタイミングなので、区局連携して名称募集を検討してほしい。

御船区政推進課長：名称募集について、みどり環境局に要望を伝え、実施できるか確認する。それだけでなく、できるだけ多くの区民の皆様にも知っていただきたいので、どのような広報ができるのか、どのようなイベントの開催が可能かなど、みどり環境局と検討していきたい。

中島議員：区民祭りで子供たちがスケートを教えてもらえるようなコーナーを設けて、スケートパークができることを広報すると良い。

堀内地域振興課長：子供たちへの PR としては、10 月に実施するスポーツフェスティバルで、戸塚スポーツセンターと連携しながら、スケートパークの PR も含めて、今年も広報を継続実施する予定である。区民祭りでは、今年がちょうど第 50 回という節目ということもあり、それにちなんだメニューを考えている。いただいた意見も含め検討していきたい。

中島議員：50 回という節目なので、今までとは違うことを行ってほしい。

区議員団の先生方や鈴木先生にも相談したいと思っていたが、横浜にとって初めて都市間協定を結んだ人口 140 万人のサンディエゴは、鈴木先生を中心に交流が深まっているが、スケートボードのアメリカの 2 大拠点として有名であり、公共のスケートパークが約 30 か所ある。サンディエゴでプロになり戸塚に戻ってきた方の呼びかけがスケートパーク開園のきっかけとなった。その方にアドバイスをいただきながら出来上がったこともあり、サンディエゴの公共公園に似ている。その方のサンディエゴの仲間も楽しみにしているという情報もあるので、国際交流にも活かしてほしい。そういった意味もあり、横浜サンディエゴ友好委員長である鈴木先生にも相談したいと思っている。区としてもスケートパークができるというだけではなくて、若い人同士の国際交流の場となっていく可能性があるため進めてほしい。

御船区政推進課長：みどり環境局へサンディエゴとの関わりや経緯なども含めて伝えていく。

中島議員：スケートパークは有料施設で、大人 400 円、子供 200 円を上限として、具体的な金額がこれから決まっていく。スケートボードはジャンプや角を削って滑るため、維持管理費が非常にかかることもあり、全国的にも公共のスケートパークのほとんどが有料である。無料が良いとの意見もあると思うが、そういった理由で有料になることを広報し、理解を得られるようにしてほしい。

中島議員：防犯力強化事業について、防犯のまちづくり推進条例が制定されるなど、様々な防犯活動に取り組んでいるが、戸塚区ではまだまだ特殊詐欺が多く、特に高齢者が被害を受けている状況もあり、なぜ事態が収まらないのか心配している。その中で暗がり解消の取組をスタートし、防犯

灯設置申請を6月末までとして進めているが、推進状況を教えてほしい。

堀内地域振興課長：5月の区連会で、新しい暗がり解消に向けたメニューを各連合町内会経由で単位町内会まで周知している。GISを活用した暗がりマップについては、住宅地を中心とした48町内会に送付している。本日までに、すでに29件ほど申し込みをいただいている。また、マップで対象外の情報もあり、それについては8件の申請をいただいた。去年の設置実績が25件なので、申込ベースではあるが既に昨年を上回っている。

中島議員：事業を立ち上げ暗がり解消に取り組むということだが、去年と同じだと事業化した意味がない。戸塚は暗がりも多く要望も多いので、スピード感を持って設置してほしい。電柱がなくて電線もない暗がりも多いので、従来の電柱型ではなく、太陽光付き防犯灯を1件でも多く設置してほしい。現時点で太陽光付きの防犯灯の申請はあるか。

堀内地域振興課長：現時点では申請はないが、ソーラー式防犯灯に関する問い合わせは多くいただいている。丁寧に対応し申請に繋げたい。

鈴木議員：中島先生のスケートパークの提案は素晴らしい。ただ、ネーミングや区民祭りでのイベントなど、啓発について戦略的に考えるならば指定管理者が決まってからの方が良いと思う。指定管理者はスケートパーク運営ノウハウのある事業者になることも予想される。指定管理者決定後、その事業者と連携していく方が効率的だと思う。

横浜とサンディエゴは来年が姉妹都市締結70周年であり、今年9月には33年ぶりにサンディエゴ市長の来日予定もある。交流の柱の一つに加えていくことも、大変興味深い。

予算金額の増減について、自主企画事業費で5つの柱のうち3「誰もが自分らしく健やかに暮らせるまちづくり」で、2,600,000円減となっている理由を教えてほしい。

石和田総務課長：とつかハートプランの策定が終了したため、委託料が減額となった。

鈴木議員：読書活動推進事業について。図書館中心に学校等と連携し読み

聞かせ講座を行うが、連携先にフォーラムや民間図書館、横浜未来ヘルスケアシステム等も加え、面的な実施を検討してほしい。

神内戸塚図書館長：読書活動推進懇談会を戸塚図書館や地域振興課等で実施しているが、ONE FOR ALL や男女共同参画センターもメンバーとして加わっていただいた。区内の読書本を扱っている施設の皆様と図書館が中心となり、連携を深めて新しい事業を展開していきたい。

鈴木議員：書店も良いと思うので、検討してほしい。

マンション防災について、一生懸命取り組んでいてマンションガイドブックも素晴らしい。これから建築局が条例を制定すると聞いているが、区の最も重要な役割は、管理組合との接点を面的に持つということで、区内の分譲マンションの管理組合の状況をどれだけ把握できているかがポイントになる。

石和田総務課長：管理組合宛に作成したマンションガイドブックを送付している。また、毎年マンション同士の交流会を実施し、出席いただいている。

鈴木議員：区内の分譲マンション管理組合を全て把握しているか。

石和田総務課長：全てではない。

鈴木議員：区内に分譲マンションがいくつあるか、その中で管理組合がいくつあり、更に区が連絡を取れる管理組合がいくつあるかを把握することが重要である。現状、管理組合は地方自治体に対して報告義務がない。マンション防災を行政で進めるにあたっては、各マンションで進めることも重要だが、行政としては面的に状況を把握しなければならない。今後、条例が制定された場合は登録や報告義務が課せられる可能性もある。管理組合に登録義務がある場合であっても、区が状況を把握していなければ、対応が進んでいない管理組合を特定することは困難である。管理不全マンションとは、管理組合や規約、長期修繕計画等が整備されていないマンションを指すことから、実態把握を含めた全体的な状況把握が必要である。

次に防犯活動のランニングパトロールについて、T シャツは新たに作るのか、以前に作成した T シャツを配付するのか。

堀内地域振興課長：在庫に加え、令和 8 年度は約 100 枚追加で作成する予定。

鈴木議員：実際に T シャツを着て活動している区民を見たことがなく、失敗だと思っている。今後も配付を継続するのであれば、啓発を強化するなど、組織的に行ってほしい。やるのかやらないのかどちらかにした方がよい。

台風 6 号での保育園の対応について。保育園に対する区役所から要請はどのような形で行ったか。

藤井学校連携・こども担当課長：前日にこども青少年局より各保育園に対し、レベルの運用見直しに関する通知を配信した。

鈴木議員：具体的に局から何を発信し、当日は何をしたのか。

藤井学校連携・こども担当課長：こども青少年局は、警戒レベル 3 又は 4 の発令時における閉園及び開園の判断に関する運用について、前日に通知を配信した。当日は当該通知に基づき各保育園が対応したが、運用の解釈が明確でなかったため、同日午後に追加通知が配信されるなど、現場対応に混乱が生じた。

鈴木議員：もう少し具体的に言えないか。台風前日の局からの通知は関東地方にレベル 4 が出たら基本的には閉園という内容だった。局側は通知を出すにあたり午前 8 時台にレベル 4 が出るとは想定していなかったと思う。当日、実際にレベル 4 が出たのが午前 8 時 20 頃。既に園児が登園している段階で閉園をするか否か混乱している中、区から区内認可保育所に対し具体的な対応の指示はしたか。

藤井学校連携・こども担当課長：各園から問い合わせがあったが、具体的に区からの指示はしていない。局からの追加連絡を待っていた。

鈴木議員：今回は本当に混乱をしていた。戸塚区は当日に指示はしていないということだが、区によっては局からの通知に従い、レベル4が発出されたタイミングで、登園した園児の保護者に対して引き取り要請を始めている。ただ、既に園に預けて会社へ行っている状況での引き取りはすぐには難しい。実際には園も個々の対応になっていたと思う。大雨の中のお迎えは無理と判断し、そのまま預かった園もあれば、指示に沿って強硬に引き取りの指示をした園もあった。午後になり、無理に引き取らなくてもいいという追加の通知が局から発出された。当初からは打って変わった内容であり、現場は大混乱だった。そのような状況を区長は把握していたか。

白井区長：恥ずかしながら私自身の耳にまで情報が届いていなかった。ただ、災害はいつどこで起きるかわからないことを改めて意識し、区として、組織として局の状況を含めて把握をし、関係施設等と連携を取れるようにしたい。

鈴木議員：恐らく各地域ケアプラザでも同じことが起きている。地域ケアプラザも色々な事情がある。例えば深谷俣野地域ケアプラザはデイサービスがない。デイサービスを自前で行っているところと市が指示して行っているところがあり、地域ケアプラザを開ける開けない、デイサービスをやるやらない等、現場では大混乱の状況だった。その状況を区としては把握すべきだと思う。同じような事態が起きた時の対応を、災害の都度整えていくべき。

戸塚区は保育園の待機児童が多く、特に戸塚、東戸塚駅周辺は解消しきれないため新規保育園の整備を行ってきた。しかし、今年4月に戸塚駅周辺で60人規模の保育園がオープンしたことで待機児童はもう発生しないと思われ、これ以上の新規保育園の整備予定はない状況である。6月1日に出された調査結果では逆に定員割れしている状況が目立っている。特に目立つのは小規模保育の空き具合である。こども青少年局は小規模保育事業の補助金を削減するなど、役割が終わりつつあり、今後はどのように閉所していくかを考えないといけない。こども青少年局の所管だが、各園の状況や今後の方針について情報収集は始めたほうが良い。

藤井学校連携・こども担当課長：その問題は考えていかななくてはならない。まずは各園の状況把握を進めたい。

鈴木議員：この問題は園の事業承継や統廃合にも関わる。例えば、民間保育園で保育士が集まらずに定員を減らしている状況がある。株式会社等が複数園の運営をしている場合、そのうち1つを閉園し、保育士を別の継続する園に集約していきたい意向もあると思う。その場合には空いた園を誰かがやらなければいけなくなり、希望者がいるか等、マッチングが必要になる。そのためには各園の事情を知ることが必要であり、守秘義務をしっかり守れる区だからこそ集められる情報であると思う。それをこども青少年局に一任するのは難しいため、区としてそういう情報収集をする意識を持ってほしい。

続いて、ゆるやかな見守り推進事業について。訪問介護でケアマネジャーが殺害された事件をきっかけに訪問介護へのリスクに不安を覚えケアマネジャーをやめる人が多くいる。新聞や郵便の配達員等が地域ケアプラザへ通報し対応するという良い事業だが、担い手は以前に比べて負担が重くなっていると感じている。事業を継続するのであれば、状況を把握し、行政として現場（担い手）のニーズに沿った支援を高めていくべき。

藤田高齢・障害支援課長：ゆるやかな見守り推進事業の通報件数は令和6年度の149件から7年度では168件と増加傾向にある。その多くが地域ケアプラザへの通報によるもので、近隣の方や家族等から通報するケースが増加している。電話で安全確認ができれば良いが、それが難しい場合は区職員や地域ケアプラザ職員が現場に向かう。ただし、個人宅への立ち入りはできないため、状況によっては警察や消防に協力いただき、安全確認をしている。

地域ケアプラザの負担軽減については、ヒアリングの中で区への事業報告書作成の負担が大きいという意見があったことから、昨年の秋から様式を簡素化した。その他にも今年10月から地域ケアプラザの窓口相談時間を月曜から土曜日は17時までに変更し、それ以外の時間帯及び日曜祝日はコールセンターで対応することで地域ケアプラザが日中業務に注力できるようにする予定である。今後も地域ケアプラザの業務負担軽減のために何ができるか、区局が連携して考えていきたい。

鈴木議員：窓口相談時間を減らすというが、日曜、祝日に専門職がいない状況で現場として対応できるのか疑問である。閉館にした方が良いという

意見が出ることも予想される。また、地域包括支援センターでの相談内容の集計について負担が大きいという声が多く、対応を考える必要がある。局だけでなく、区でも実態や現場の感覚で把握してほしい。地域ケアプラザによっては包括相談の記録にＡＩを活用している場合もある。負担軽減のために何ができるか、研究を重ねてほしい。

次に障害理解促進事業について、具体的にどのレベルまでやるのか。区内には朝日塾があるが、例えば、やまゆり園のような重度の知的障害施設の、現場の空気感も含め理解をしているのか。施設職員が暴行を受けるような状況もあるが、その対応は難しい。その難しさを啓発するために、もう一步踏み込んで取り組むと良い。どのレベルまで啓発や支援力向上を図ろうと考えているのか。

藤田高齢・障害支援課長：障害理解促進事業では、例えば公共の場で大きな声を出してしまう等の障害から来る行動特性を広く区民の皆様に使っていただくため、イラストを用いて分かりやすく啓発するポスターの作成を考えている。それを公共施設等に広く掲出し、また、12月の障害者週間と絡め広報よこはまで紹介していきたい。

支援者向けの講座については、昨年度、支援者より精神に障害のある方との接し方の知識を得る機会を区で作ってほしいという意見があった。今年度は9月から10月頃に精神障害をテーマとした講座を専門家を招き、就労支援事業所やグループホームの職員、ボランティアの方々を対象に実施したいと考えている。

鈴木議員：障害者プランの改定作業を今年度実施すると聞いた。障害者プランとは、誰のことを指しているのか不明瞭なので、健康福祉局には解像度の高い話をしてほしいと伝えている。

坂本議員：他区で区づくり推進市議会議員会議や議員団会議に警察が出席している区があると聞いたことがあるが、どのような状況か。

石和田総務課長：警察署については、この後の議員団会議で報告があるので、出席予定である。他区でも状況に応じて、出席している区もあると把握している。

坂本議員：以前から伝えているが、警察にもこの会議に出席してほしい。
道路交通法改正や４月に発生した死亡事故、横断歩道や信号機の設置など、地域の改善要望を含め状況を聞く場を区で検討して欲しい。

石和田総務課長：この後の議員団会議に警察署も出席し、交通事故の状況などの報告がある予定である。

坂本議員：毎回ではなく、報告事項のために今回だけ出席するのか。

石和田総務課長：昨年の６月にも出席いただいている。年度の初めには出席いただきたい。

坂本議員：ぜひ年１回でも良いので、定例化してほしい。

次に、５月１４日に発生したゲリラ豪雨では、戸塚でも雹が降り、その氷が排水溝を塞いで冠水した場所も多く発生したが、区役所周辺の状況を教えてほしい。

石和田総務課長：東戸塚方面はかなり大雨だったが、区役所周辺はそれほどでもなく、被害も出ていない。

坂本議員：以前、地下鉄戸塚駅への雨水流入が発生し、止水板の整備をした際にも伝えたが、止水板があったとしても公用車を地下駐車場に停めておくのは危険である。隣接の商業施設などに数台でも移すべきと考えるが、検討状況を教えてほしい。

石和田総務課長：発災時でも出動できるように、地下駐車場から地上に移すことを考えている。

坂本議員：災害時に車は移動手段として必要であり、具体的な場所の検討もしてほしい。

次に、北部斎場に Wi-Fi 環境がないと利用者から聞いた。斎場も含めた区内行政施設に Wi-Fi 環境があるか把握しているか。

石和田総務課長：公共施設に入っているか全て把握はしていない。

坂本議員：市の担当局に要望をすべきだが、人が多く集まる場所で Wi-Fi 環境は情報を得る有効な手段であるため、ぜひ意識してほしい。

歴史を生かしたまちづくり事業について、区役所の地下通路部分に浮世絵等が展示され、とても良く整備していただいた。人が多く集まる商業施設の壁面などを活用した歴史的な街の P R に行政が助成金を出しても良いのではないか。例えば、東海道五十三次のパネルなどを壁面に整えて、昔の街を歩いているようなイメージを持てる環境など良いと思う。戸塚区は広いので、東西にいくつか整備してもらえると、多くの子供たちも歴史的な街ということを学べるので、検討していただきたい。

御船区政推進課長：歴史に関心がある層は高齢者が多いため、小学生など若い方にも戸塚の歴史を知るきっかけとなるよう、戸塚の歴史まるわかりブックを配付するなど取り組んでいる。また、とつか宿場まつりを毎年開催しているが 7 年度は 1,600 人に参加いただいた。現状はこの 2 つが中心だが、歴史スポットを案内するサインが区内各所に設置をしてあることも踏まえ、より多くの方に歴史を知ってもらえる方法を検討していきたい。

坂本議員：横浜市のデジタルサイネージの活用について十分でないと感じている。戸塚区役所の駅直結という好立地を生かし、画像を用いた P R 方法など個性を出していただきたい。

次に下川町との交流だが、今年 2 月に複数の議員で下川町へ行き、オリンピックのパブリックビューイングやアイスクャンドルを含めて、良い交流をさせていただいた。区としても予算を確保し、幹部だけではなく職員もしっかり交流してほしいが、区長はどう考えるか。

白井区長：先日、下川町長に戸塚区へお越しいただき、面会と懇談をさせていただいた。私自身も視察に行きたいと話が及んだが、私の前任が昨年度視察に行っており、SDGs の取組の状況など拝見させていただいた。その後の取組進捗状況から、来年度あたりが良いのではと話したところである。このため、私としてはぜひ来年に行かせていただき、状況の把握、研修と懇親を深めてまいりたい。

坂本議員：報告できる内容が纏まってからの行き来というのではなく、区

長は着任直後なので、ぜひすぐに行っていただき、どのような街なのか見ていただきたい。我々もこの交流は大切にしていきたいので、ぜひ幹部が積極的に行き来し、職員の交流まで繋げてほしい。

伏見議員：養育者支援事業として、育児不安を抱える養育者への個別カウンセリングに取り組んでいるが、月2回の個別カウンセリングが年2回の振り返りカンファレンスにどう繋がるのか、内容を教えてほしい。

鋪こども家庭支援課長：個別カウンセリングを毎月2回実施し、支援する区の職員もカウンセリングに来ていただいている心理士と内容を共有し、更に年度始めと終わりに養育者の変化や支援するうえで必要な配慮などのアドバイスをカンファレンスとして実施している。

伏見議員：カウンセリングは様子を見ながらしっかり実施していただいているが、相談はどれくらいの割合なのか。

鋪こども家庭支援課長：枠はほぼ埋まっている。既に医療機関でカウンセリングを受けている方については、かかりつけ医や心理士との方針の相違により混乱が生じるおそれがあるため、役割分担を図りつつ、医療機関の利用を希望するものの利用が困難な方の入口として実施している。

伏見議員：引き続き丁寧に対応してほしい。

次に青少年防災対応力強化事業として、区内中高校生を対象に指導していただいているが、放水訓練は実施しているのか。

堀内地域振興課長：昨年度は消防訓練センターの工事により、俣野小学校で実施した。多少の制限はあったが、同様のメニューを実施した。

伏見議員：発災時に火災が発生した場合、地元の訓練では、スタンドパイプで消火するよう指導をしているが、消火栓が使えるか使えないかという課題があり、先日、消防署長や副署長にお話を聞かせていただいた。災害時の放水訓練では、指導方法や説明の仕方も変える必要がある。横浜市では水道局が点検をしたうえでなければ、消火栓は開けられない。そのことを地域の皆様や訓練を受けた人たちに周知しなければ、水が出ずに混乱し

	かねない。区としての取組を伺いたい。 菅野戸塚消防副署長：市民の皆さまには防災指導を通じて消火栓や消火栓箱、スタンドパイプの使い方を説明させていただいている。過去の経験から、発災時に故障で使えない場合があることも含め説明している。ご指摘のとおり、使える消火栓、使えない消火栓があるということを防災訓練で丁寧に説明していきたい。 伏見議員：訓練で習っていても、実際の火災ではパニックになってしまう場合があるので、丁寧に周知してほしい。 次に下倉田町の歩道拡幅の進捗状況を教えてほしい。 森土木事務所副所長：第２回市会定例会での道路局長答弁も踏まえ、土木事務所としては、早急に地権者に対して用地交渉をしていきたい。現在、測量作業を進めており、その結果で用地協力が必要な面積が確定する。確定次第、地権者と積極的に交渉したい。 伏見議員：先ほど事故の話もあったが、やはり下倉田町の道路も大変危険なので、引き続きお願いしたい。また、舞岡熊之堂交差点について、戸塚駅方面から坂を登り切ったところが交差点になっているため見通しが悪い。また、下倉田方面から向かう場合、片道２車線だが信号の先は一車線になり合流するが、右の追越車線から左の走行車線に入る構造で、大変危険である。その先もカーブになっているので、安全に車が入れるようにしてほしい。また、舞岡自然公園周辺は工事車両や宅急便、幼稚園バスも駐車している。左に入ろうとしても車が止まっており、危険な状況であるため、右へ入るような形の仕組みにしてほしいと、地域住民からも話が出ているが、今後どうなのか聞かせてほしい。 森土木事務所副所長：警察と協議する準備を進めている。極力早い段階で協議を終えて改善できるように取り組んでいきたい。
備 考	